

ミョウガを育てよう

1 ミョウガの基礎知識

アジア東部の原産で地下茎で繁殖する多年生植物です。地下茎の先端に形成された花蕾は花ミョウガとして利用されます。生育適温は20〜23℃、好適土壌pHは5.0〜6.0で、半日陰でやや湿った場所を好みます(写真7)。夏季の高温・乾燥条件下では葉枯れが起きたり生育が停滞し、降霜後に地上部は枯死します。春または秋に種茎

を植え付け、夏秋期に花蕾を収穫後、冬に地上部が枯れて地下茎は休眠に入り、越冬します。生育条件がよければ、10年以上収穫を楽しめます。



(写真7) ミカンの木の下で育つミョウガ。

2 品種の選び方

地下茎で繁殖するため、変異が小さく品種の分化は少ないです。花蕾の出蕾時期によって、早生種を用いた夏ミョウガと中生・晩生種による秋ミョウガに大別されます。

3 栽培のプロセス

◆畑の準備

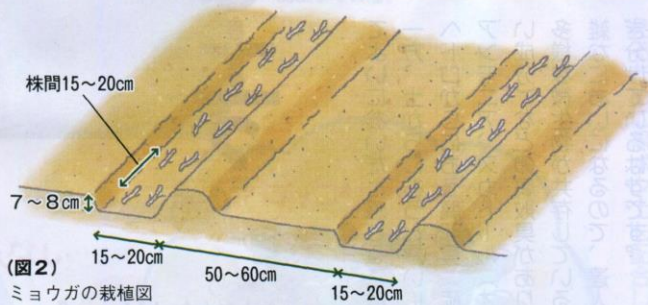
植え付けの約1カ月前、1㎡当たり堆肥1kg、苦土石灰100g、元肥として有機化成などでチッソ、リン酸、カリを成分量で各8〜10g施用します。

◆植え付けと敷きわら

植え付けの適期は3月上旬〜4月上旬、健全な種茎を入手し、太い根茎を3〜4節つけて分割します。50〜60cmの間隔をあげ、クワなどで土をサイドに盛り上げながら、幅15〜20cm、深さ7〜8cmの浅い溝をつくります。株間15〜20cm間隔で種茎を並べ(写真8、図2)、盛り上げた土をその上にかぶせて覆土します。植え付け後、乾燥防止と防寒のためわらを敷きます。



(写真8) 種茎を並べ植え付ける。



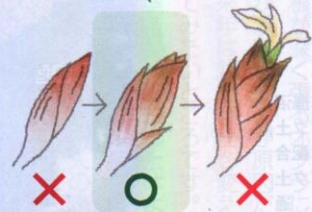
(図2) ミョウガの栽植図

◆追肥と水やり

5月下旬〜6月下旬に化成肥料を1㎡当たりチッソ、リン酸、カリが成分量で各2〜3gとなるように、畝面に施用します。茎葉にかららないように注意してください。土が乾いたら水やりをします。

◆収穫

早生種では、植え付け1年目は8月上旬ごろ、2年目以降は7月上旬ごろから、株元から出てくる花蕾を収穫します。十分肥大し、開花前のかたくしまった花蕾を収穫します(図3)。開花後も、風味は落ちますが食べられます(写真9)。



(図3) 花蕾の発育。十分肥大し、開花前のかたくしまった花蕾を収穫する。



(写真9) 通り遅れて開花したミョウガ。開花後も風味は落ちるが食べられる。

1年目の冬以降の管理は?

◆施肥と敷きわら

休眠期の12月末〜翌年3月、根茎腐敗病を防止するため、枯れた茎葉と古い敷きわらを取り除いて元肥と同量の肥料を畝面に施用します。その後、畝面に新しいわらや落ち葉を敷きます。3月下旬〜4月上旬、雑草防除と花蕾の緑化防止を兼ねて再び敷きわらを行います。追肥は1年目と同様に行います。

◆間引き

植え付け2年目の5月下旬〜6月上旬、地上部の茎数が1㎡当たり50〜80本になるように茎を刈り取って間引きます。これにより通風や採光性がよくなり花蕾が赤紫色に色づきます。3年目以降、株が込み合ったら、花蕾が小さくなり、収量が落ちてきたら、休眠期の12月〜翌年2月、全体の4分の1程度の株を地下茎ごと掘り取って間引き、間隔をあげます。